明治大学大学院
情報コミュニケーション研究科特別講義

ジェンダー／セクシュアリティ研究の視点をめぐって
～オープンリーゲイの文化人類学者として～

2021年12月16日（木）
17：10～18：50
Zoomによる開催

※QRコードかこちらからお申込みいただいた方へ
後日Zoom情報をお送りします。
申込期限：2021年12月9日（木）

すながわ　ひでき
砂川　秀樹
明治学院大学国際平和研究所研究員

文化人類学者・博士（学術）／ゲイ・アクティビスト。1990年よりHIV/AIDSに関する支援活動や研究に従事し、2000年代には東京のLGBTのパレードを代表として牽引する一方で、ゲイバーや新宿二丁目のゲイコミュニティに関する研究で博士号を取得。2011年には故郷沖縄に帰り、沖縄初のプライドイベント「ピンクドット沖縄」を実現した。著書に、『カミングアウト』、『新宿二丁目の文化人類学』など。

ジェンダー／セクシュアリティを研究する上で重要な視点として、文化人類学者・田中雅一が提示した「当事者の声を聞く」「常識を疑う」「性を問う」（田中雅一2005「ジェンダーとセクシュアリティの文化人類学」、田中雅一、中谷文美編『ジェンダーで学ぶ文化人類学』世界思想社）を、ゲイの研究者の立場から、「沈黙化（沈黙させられている）層の声を聞く」「ヘテロジェンダーの常識を疑う」「社会的、政治的問題として問う」と敷衍し論じる。

それらは、研究だけでなく教育、対人支援等でもある人たちの存在を看過しないため、また、目の前の事象を見誤らないために必要な視点である。

主催：明治大学大学院情報コミュニケーション研究科
URL: https://www.meiji.ac.jp/dai_in/infocom/
Email: jokomiken@mics.meiji.ac.jp